

増加する空き家
不法侵入、ゴミの投棄、
倒壊、さまざまな危険が!

廃屋から白骨遺体!! 生活していた痕跡も 孤独死体の謎

全国にある空き家は820万戸とされ、年々増加傾向にある。空き家問題はいまや深刻な社会問題のひとつだ。そんな無人の廃屋のひとつから、死後数年が経過した白骨遺体が発見された。以前はラーメン店だったその建物は、現在では草木が生い茂り、夜になると異様な雰囲気だった。亡くなったのはどのような人だったのか。真相に迫った

埼玉県春日部市。片側2車線の国道沿いに、かつて繁盛したラーメン店がある。その周囲は、今、草木が生い茂り、一見ただけではそこに建物があると思えない。その廃店舗から白骨遺体が発見されたのは、9月17日午後3時過ぎのことだった。周辺に伝わっていた「あそこ



建物の裏のフェンスは破れて、窓から誰でも侵入できる状態に

「オーブンは、正確には忘れちゃったけど、1971年から72年ごろですよ。1階はラーメン店でした。途中で建て替えて、2階で焼肉店をやるようになりました。にぎわっていましたが、最後はファミリーレストランに押されきみになって……92年10月に閉店しました」

閉店して丸24年。建物は不動産価値を失っているが、約170坪の土地は5250万円です。売却に出されていたという。地元の不動産業者は、「高いよね。1坪30万円なんて、誰も買わないよ。こちらの相場は、1坪15万円かな」

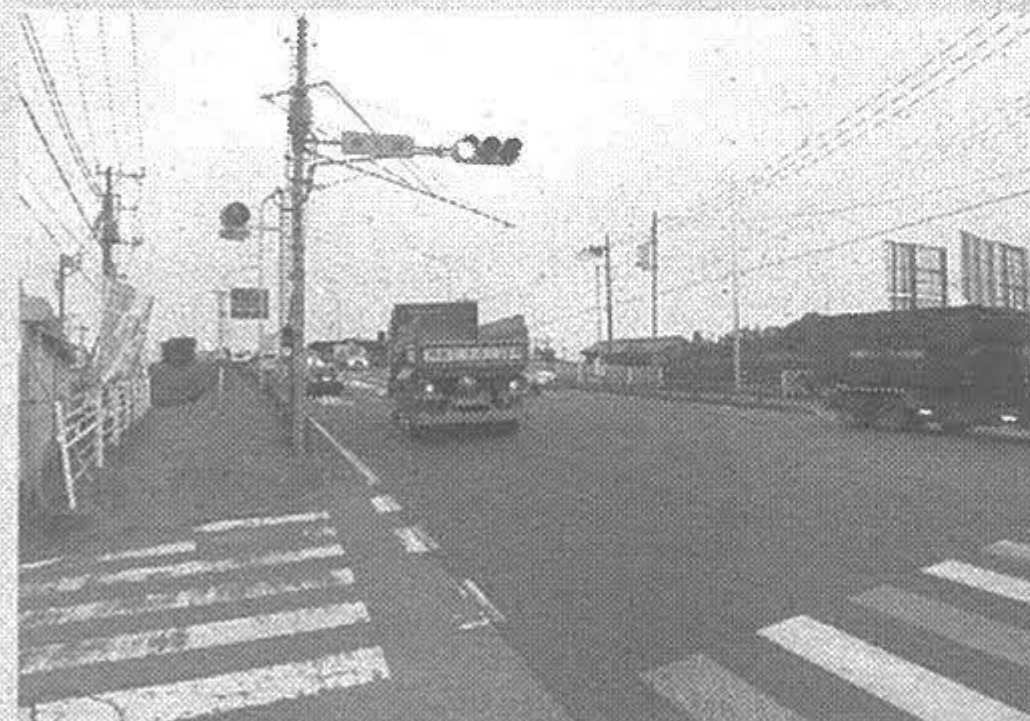
買い手はつかず、ずっと空き店舗のままだった。近隣住民が「何で放置しておくんた。さっさと更地にしたらいいのに。気味が悪い」と声を荒らげ、近所の主婦が「人が出入りして飲み食いしているみたいよって話を聞いたわ。気持ち悪いし怖いからなるべく近づかないようにしているの」と警戒する物件。別の住民は、「誰かが廃屋に入ってしまった

「今から15年以上前かな。店を閉めてから誰か居たにいたらいけないからって、当時の常連さんと店舗の中を見に行ったことがあったんです。入り口の窓ガラスは割られていて、鍵が開いていてね。トイレには大便がしたままになってた。誰かがいたみたいなきもちでしたけど、ラーメン店に頻りに通っていたという近所の住民は、「3、4年前だけど、毎日、朝5時ごろに、うちの前を通って店舗の方向に歩いて行って姿を消す人がいたんだ。コンビニの袋が何かに残飯なんかを入れて、髪もボサボサでガリガリにやせてた」

「こしはばく、そのホームレスの姿を目にしなくなっていたという。ニュースで遺体の発見を知ったという地元自治会長は、「やっぱり空き家ってのはよ

「元ラーメン店に出入りする人の影。建物の近くに畑を所有する地元女性には、

「誰かが出入りするところは見えたことないけど、建物のフェンスの中の草が踏みつけてあったから、誰か出入りしているんでねえかなあとは思ってたんだけどね。どうせホームレスとかだろうよ」と推測する。前出の元店員も、廃店舗に人の気配を感じたことがあったと、次のように証言する。



「上」建物前面の国道は交通量が多い「下」周辺は田園地帯が広がる

トラブルだけでなく犯罪の温床にも

ゴミが投棄されたり、ホームレスが違法に住みついていたり、長年放置され続けたために倒壊の危機が迫る物件もあり、人口減少国家日本の、新たな社会問題になりつつある「空き家問題」。

家主協会の手塚康弘理事長は、空き家がトラブルや犯罪の温床になると指摘する。「依頼のあった空き家に月に1度訪問するサービスを行っています。空き家の近隣住民が、私たちが管理する空き家の庭に餌を置き、野良猫にあげていたことがありました。樹木が隣家の家にまで越境し、トラブルになることも多い。草木が生い茂れば害虫が発生したりしますから。ほかには、商品詐欺の受け取り場所に空き家が指定されることもあります」

誰も住んでいなくても、きちんと管理されていて問題の起きない物件もあるが、「管理されていない空き家が問題」

と、地方自治を専門とする関東学院大学の出石稔教授は指摘する。高度成長期に各地に誕生したニュータウンはいまや高齢者の街になり、「売ります」の看板が立てかけられている戸建て物件は多い。それでも出石教授は、

「空き家を改装しシェアハウスとして活用したり、東京・文京区では空き家の撤去費用を区が持つかわりに区が20年間管理し、防災拠点にした例もあります。今後は民泊への利用も期待されます」と好例を明かすが、前出の手塚理事長は、

「都市部よりも田舎の過疎地域のほうが問題が深刻でどうやって活用することができないかが課題」



関東学院大学の出石稔教授



日本地主協会の手塚康弘理事長

廃店舗だった物件は、周囲に生い茂る草木が目隠しになって、白骨遺体の男性が「住みついてたのは」と捜査関係者は話す。電気もなく、水道もなく、ガスがなくても、食料をどこかで調達できれば、ホームレスにとって廃屋は雨露をしのげる絶好のねぐらになる。だが、たとえそこで具合が悪くなったとしても、助けを呼ぶことはできない。たったひとりでのけのぼりになった身体で最期を迎え、発見されたときには白骨化している……日本社会のまぎれもないひとつの側面を、孤独死体が訴える。せめてもの救いは、その男性が、昼の上で最期の時を迎えていたということか。



9月29日現在、白骨遺体の身元について、捜査関係者は「現在も捜査中で、身元などについてはわかっていません」としている。身元不明の場合は、市の官報と掲示板に「行旅死亡人」として掲示される。